

- 重要な学習事項：形容詞の比較級
- クラスアクティビティ：パターンプラクティス、作文
- 関連する既習事項：形容詞（ただし形容詞という概念、用語についても学習済み）＊この授業を単独で行う場合は、形容詞1の導入を参照。
- ねらい：形容詞を意識的に用いることができる。また-er,を使った形容詞の比較級を理解し、使えるようになる。
- 取り出し時間数：1～2時間

齣離	学習活動	指導の流れ	学習・日本語支援
導 入	<p>○Warming Up</p> <p>○前回学んだ形容詞について復習する。</p> <p>○形容詞には二種類あることに気付かせる。</p>	<p>○形容詞を使った小会話。 T: How are you today? T: How is the weather today?</p> <p>○T: 『形容詞』何ですか? S: 若い、大きい… T: そうです。形容詞は“どんな”をいう言葉です。 (形容詞=どんな (ルビつきで) と板書) XX 先生、どんな? XX 先生、小さい、きれい、若い! How is Ms XX like ? She is small, beautiful and young!! ※ 同様に S についてたずね、説明させる。</p> <p>○T: 『形容詞』たくさん書きましょう。 B 5 くらいの紙を三つに折り、まん中に英語で形容詞を一つ書き (後で下に—er, —est の形を書くのでスペースを取る)、上に日本語、下に母語で (必要に応じて) 意味を書かせる。一枚に一単語でできるだけたくさん書き、今回の単語カードとして用いる。</p>	<p>●適宜やさしい日本語を入れる。 ○できるだけ英語の文で受け答えするように促す。</p> <p>●英語、日本語、母語のいずれでもかまわない。英語で出てきた場合には以下の説明もまず英語から行う。 [理解支援] ○how/どんなを強調。</p> <p>○出てこないようならば、前回の単語表を見るように指示。 ●時間で区切りだらだらやらない。日本語を書くのに時間がかかるようならば、英語のみ書かせて日本語はこちらで書く。</p>

○T:これを二つのグループにします。赤と青にわけます。

どうする？ どうやってわかる？

(黒板のまん中に線を引き、赤/青とわかる。それ以外の黄色のコーナーも端につくっておく。)

※ しばらく考えさせる。

※ これは赤だけど、こっちは青だね。というようにヒントを出す。
(短い形容詞と長い形容詞にわけるといふ答えが導かれたところで)

そうだね。先生の **small** と **young** は赤だけど、 **beautiful** は青だね。
どちらにも入らないものもあるので、それは黄色にしましょう。

赤、青、どちらにも入らないのはCにして黄色で線を引きましょう。
“big”は？ 赤？青？

S: 赤!

T: そう。“big” に赤い線を引きます。

(全部のカードに線が引けたところで)

T: では、読んで、黒板に貼ります。

S: Tall.

T: 日本語は？

S: 高い。

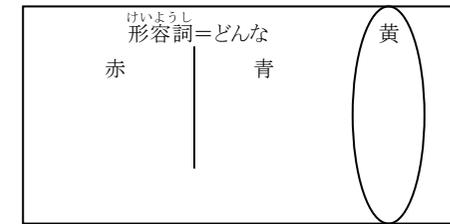
T: ——語では？

S: -----.

T: 黒板に貼ります。(磁石を渡す。) 形容詞には3つのグループがありますね。

(全部のカードについて行う。)

持っている単語表を同じように色分けするように指示。
ありますね。それぞれ読んでみましょう。



○必要に応じて短い/長いの意味の確認をしたり文字数を数えさせる。

○赤、青、黄色は必ず色で示し、場合によっては文字は用いない。

[理解支援]

○線を引く作業は一つめは一緒にし、やり方が分かったところでひとりでやらせる。長い、短い、それ以外の区別は一緒に行い、例外や比較級にならないものを分けていく。

○時間をかけ過ぎず、テンポ良く進める。

○~er の提示

○T:では、次の勉強です。
青や黄色は次の時間に勉強します。
今日は赤のグループの形容詞だけ使います。
(黄色→青→赤の順に束ねていく。)

○ (生徒の母国を型取ったものを提示する。)

T: What is this?

S: Y!

(次に日本を型取ったものを提示する。)

T: What is this?

S: 日本。Japan.

(二つの国を型取ったものを並べて黒板に張り付け表を付ける。)

T: では、比べます。

赤の形容詞のカードの中から 1 枚取り出し、

T: Y と日本どっちが “hot”?

S: Y!

(表の Y の欄に丸をする。赤の形容詞のカードを用い同様に繰り返す。)

●生徒が母国について語ったことの中から使えそうな形容詞をピックアップする。

[情意支援]

	(絵)	(絵)

運 用		<p>T: 日本と Y、Y は日本よりも “hot” です。 日本と Y、Y は日本よりも “ ” です。 日本と Y、日本は Y よりも “ ” です。 (同様に繰り返す。) では、英語で言ってみます。 Listen. Y is hotter than Japan. Y is ---er than Japan. Japan is ---er than Y. (同様に繰り返す。)</p> <p>(表の上に板書する。) A is ---er than B. A は B よりも----だ。</p> <p>T: 形容詞に--er が付きます。 (○の横に—er の付いた形を書いていく。 その際 hot の t など不規則に変化するものについては 色を変えて書く。)</p> <p>T: では英語で言ってみてください。 (表にあるすべての単語について日本と Y を比較した文を口答で言う。)</p> <p>T: では書きましょう。 ノートを取るように指示。</p>	<p>●母語による文法解説がある場合にはここで活用する。なければ言葉で説明しようとせず、音で (短母音など)、または一つひとつ形を教える中で法則を見い出させる。生徒の理解度に応じて er, est の付け方だけで1時間かけてもいい。</p> <p>例 : hot big pretty</p> <p>[理解支援]</p> <p>○図があり、文法事項、作文が書き込めるプリントがあると良い。</p>
--------	--	--	--

パターンプラクティスで定着をはかる。

○ピクチャーカードを使って英語で表現する。

(例) 背の高さの違う女の子二人。
 大きさの違うりんご二つ。
 ねこ二匹。(かわいい)
 本2冊。(おもしろい)
 髪の毛の長さの違う女の子二人。

それぞれに A,B と印を付け、図の下に A,B が指すものを日本語と英語で書いて折る等して隠しておく。

T: Look at this picture. この絵を見て。

何が違う？Aの方が背が高いね。

形容詞は tall だね。

A is taller than B.

(A と B に入る英語を見せて)

This girl is taller than that girl. 言ってみて。

S: This girl is taller than that girl.

同様に繰り返す。

○全部終わったら、ピクチャーカードを黒板に張り付け、ノートに書き取るように指示。

○書き終わったら、もう一度全部読み上げさせる。

○さらに、英語の下に日本語の文も書かせる。ここで A と B に入る日本語を見せる。

T: この女の子はあの女の子よりも背が高い。(絵や文法事項の訳のところをそれぞれ指差しながら確認。)

(形容詞のところはプリント(ノート)を見るように言う。)

(絵や文法事項の訳のところをそれぞれ指差しながら確認。)

(形容詞のところはプリント(ノート)を見るように言う。)

○教科書に出てくる絵などを大きくして使用する。

A	B
(絵)	(絵)
this girl	that girl
この女の子	あの女の子

[理解支援]

○形容詞がでてこなければノートや教科書を見るように指示。まだ覚えていないようならばピクチャーカードに形容詞を記入してもよい。

[理解支援]

○作文づくりを楽しみながら、
~er を使えるようになる

○--er を使ってラブレターをつくる。

T: 今 S さんにはとっってもとっっても好きな人がいます。
その人に手紙を書きましょう。手紙の中でその人がどれくらい好きか、どのくらい素晴らしいか言ってみましょう。
(芸能人、架空の人物でも構わない。)

Dear _____ , You are <input type="text"/> than _____ . I love you so much. My love is <input type="text"/> than _____ . Yours, _____ .
--

(語彙については教えて構わない。 可能ならば、母語(日本語) → 英語の辞書を使えれば辞書を引きながら考える。その際には形容詞のマーク、(形)または adj. も一緒に教える。)

○時間内にできるようなら発表させる。できないようならば家庭学習とし、提出させる。

●運用については在籍学級での授業に任せても良い。その場合には、在籍学級で使われるだろう英語/日本語の表現、教科書の読解などをやっておくと良い。 [表現支援]